



略歴

昭和21年 北海道富良野市生まれ。  
昭和49年 北海道大学大学院農学研  
究科博士課程単位取得。  
同 年 酪農学園大学講師  
昭和59年 同大学助教授  
平成3年 同大学教授  
同 年 社北海道地域農業研  
究所幹事

# デンマークのファーム・イン

中原 准一

この夏、酪農家に家族で宿泊する機会があった。デンマークでは農家宿泊制度が以前から発達しており、同国内外の人びとに愛用さ

れている。DSB（デンマーク国鉄）は、宿泊者受け入れ農家のリストを作って利用者の便宜をはかっている。このリストによると、全土で二百二十戸の農家が同制度に登録されているのが分かる。リストのページをめくっていくと、個々の農家ごとに、経営者夫妻の名前、住所、電話番号、宿泊収容人数、食事の提供の有無、近隣の景勝地や敷地内の遊具についての説明、飼養している動物（乳牛、



▼女性が畜産シヨウでも重要な役割。デンマークの紅牛を率いて登場。

▼デンマーク国旗の林立する畜産シヨウ会場

豚、鶏、馬など）の内容、例えば馬なら乗馬の可否などが懇切丁寧に書かれている。デンマーク人は、サイクリングが好きだ。当然、貸自転車の有無も含まれている。また、釣りの愛好者が多い。池までの距離が記されている。氷河期の名残で、大小の湖沼が未だにあちこちに存在する。酪農家の圃場のなかにも沼沢





◀ オーデンセ（作家アンデルセン生誕の地、人口でデンマーク第3の都市）で、短い夏を楽しむ人びと

がけっこうみられる。デンマークには、やはり氷河期との関連で山がない。せいぜいあったとしても緩傾斜が地表をウエーブしているに過ぎない。ユトランド半島ホーセンス近くの丘陵地の標高一七〇メートルの箇所が同国の最高峰だ。してみると、大小の湖沼は景観のうえからも価値が高い。宿泊希望者は、主要都市のツーリスト・ビューローを介して農家を紹介される仕組みになっている。いずれにしてもデンマークでは農家宿泊が市民の余暇利用にすっかり定着している

といえよう。

わたしたちは、七月末、ホーセンス近郊のロアセン家に三泊した。家族は夫のスウエン氏（五十四歳）、ベラ夫人（五十歳）、二女のジュティさん（二十二歳）の三人。農地面積は、所有地二二ヘクタ、他に借入地二二ヘクタというから、現在のデンマークでは小規模農家のほうだ。経営内容は、搾乳牛二十三頭飼養（一頭当たり乳量六三六五kg、乳脂肪分四・一〇割）、たんばく分三・二五割の酪農を中心に、採草地、放牧地のほか、小麦、大麦、ナタネ、豆類などの換金作物を組み込んだ、典型的な複合経営である。農作業は、夫のスウエンさん一人。朝夕の搾乳時に近隣の二四歳の少年が各一時間ずつ自転車に乗って手伝いに来ている。ベラ夫人は、宿泊者のケアや家事を専らとし、農作業には出ていない。宿泊料金は、一泊二食付きで大人が二百二十クローネ（一クローネ約十二〜二十三元）。子供はその半額。三泊が原則。朝食は八時、夕食は十九時。宿泊初日の夕食は、ロアセン夫妻がホストとなってわ

たしたち家施と一緒にとる。スーブの次に、ブラウンソースのたっぷりかかったポークソテーが出される。これにはポテトや緑色野菜がそえられている。ベラ夫人の丹精込めたものでとても美味しい。

夫人は、食事中わたしたちに長女は既に結婚して孫が一人いること、長男が二日後に結婚式をあげることなどを説明。長男の方は、北ユトランドでやはり酪農と養豚の専業農家とのこと。かれの結婚の行事は二日間にわたって行われること、披露宴に参集する人びとは夜更けまで繰り広げられるダンスを楽しむにしていること、等々、夫人の説明は続く。この間、スウエンさんは終始にこやかに夫人の話に相づちを打つ。夕食後は、クリームのいっぱい入ったフルーツケーキをデザートとして楽しむ。当然、これも自家製。わたしは、夫妻の控えめながらも宿泊客を心から歓迎している気持ちを知ることができた。折から白夜の頃、わたしたちは、北欧の農村の夏を満喫したわけで、いつまでも印象にのこるであろう。